

## V 現存植生図を基礎とした自然環境診断

### 1. 市街地

国鉄東海道本線を中心に北部に行政，商業，工業地が，南部海岸後背地に住宅地が集まっている平塚市では，びっしりと建造物が軒を並べ所狭しと連なっている。わずかに北部市街地では市役所前の八幡神社に自然に近い緑と植林が残されている。また四之宮から田村あるいは南原，中原から豊田に続く昔からの集落では緑がつらなり，かつての平塚市の原形が理解される。

平塚市南部はかつて古い砂丘であったため造成され宅地化された今日でも砂地はつづき，一部に昔からのクロマツ林が残されている以外に緑はきわめて少ない。

平塚市街地では残されている数少ない緑の保全と，都市部，工場，学校などの公共施設の中やまわりに積極的な緑の環境創造が必要とされる。

### 2. 湘南海岸

相模湾一帯の砂丘地帯は鎌倉・藤沢・茅ヶ崎・平塚とかつては広い面積で海にはり出していたが，砂利採取や河川工事の発達のため，最近では昔の面影をみることができないほど狭く小規模になっている。さらにサイクリング道設置のための造成や，海水浴客や観光客による強度の踏圧は砂丘特有のきびしい環境条件下に生育する砂丘植生の生育をも変えている。

平塚市では昔から広くコウボウムギ，ハマヒルガオ，ハマエンドウなど初夏に緑，ピンク，紫の色で単調な砂浜を飾る砂丘植生が広く生育していた。現在ではブルドーザーによるサイクリング道設置のためメヒシバ，エノコログサなどの好窒素性の一年生雑草が入りこんでいるところが見られる。自然の砂丘植生は虹ヶ浜と相模川河口にまとまってみられるだけになってしまった。

海岸の防砂林，防風林のためのクロマツ植林は比較的せまく帯状に湘南道路沿いにみられるが，砂丘の幅が狭いところでは強い風衝のため頭が枯死している場所が多い。これは無理な植林による被害と考えられる。

茅ヶ崎市に接した相模川河口の砂堆積地は深く湾入し，一部ゴルフ場建設が行なわれたが，昔から植栽され生長してきたクロマツ植林が茅ヶ崎市柳島海岸からつづき細々と残されている。クロマツ林前面にはチガヤ草原が広がり，かつてチガヤーハマゴウ群集が発達していたと考えられるが，有機物の堆積や人為的影響によりチガヤ，ススキなどの生育がみられる。砂の移動が激しい立地では島状にハマグルマーコウボウムギ群集や，ケカモノハシの小丘がみられる。湾入のもっとも奥は波と塩の影響で塩沼植生のシオクグ群集がギョウギシバ群落とともに水際に細い帯状にみられる。相模川河口一帯はまだ自然が細々と残されている状態といっても過言ではない。

砂丘後背地は市街地となり国鉄東海道本線や平塚市中央商店街につづく。砂地が造成され宅地



Phot. 45 砂地の地域は特に緑の植被による飛砂防止，環境保全林形成が望まれる。

Auf Sandflächen alter Dünen ist es sehr wichtig mit Hilfe der Vegetation den Flugsand vor Verwehung zu schützen und Umweltschutzwälder zu begründen (Suka).

化されたこの一帯には松風町，桃浜町に一部クロマツ植林が残されているだけで緑はきわめて少ない。環境保全林や保全緑地形成は時間がかかる地域であるが，公共施設からはじめ，並木までうまく空間を利用した総合的環境保全緑地形成が望まれる。

### 3. 相模川・花水川（金目川）

茅ヶ崎市との境界に位置している相模川は砂利採取により川底が深くなり河川地形が本来の河川とは異っている。しかし増水時の冠水に際しては高い河川敷までの水底に没し，河辺植生の存続を保っている。広い河川敷は畑地や，シバ地に利用されているが，増水時の遊水地としてはきわめて適した利用方法である。平屋敷，田村，四ノ宮まで広い河川敷がみられるが，堤防を除きいつ増水してもよい利用法であれば競技場，畑地などの利用程度は許される。土堤や堤防は国の施策との関連もあるが，ヨーロッパでは緑による補強が功を奏し，河辺の緑と自然の災害に対する抗体が一致しているところが多い。兵庫県でも一部大河川で成功しているところもある。ヤナギ，サクラ類による多層社会が考えられる。

大磯町との境界を流れる花水川は小規模だが比較的河辺植生も残され自然に近い形で流れている。上流の金目川，鈴川，渋田川の3本が注ぎこみ花水川となって相模湾に注いでいる。土堤や堤防上の緑化が問題になるが，規制されていない堤防ではヤナギ類やサクラ類などの組み合わせ

による植栽は害にならず、生きた材料でしかも生きた根で堤防を網の目状に固定する働きがある。

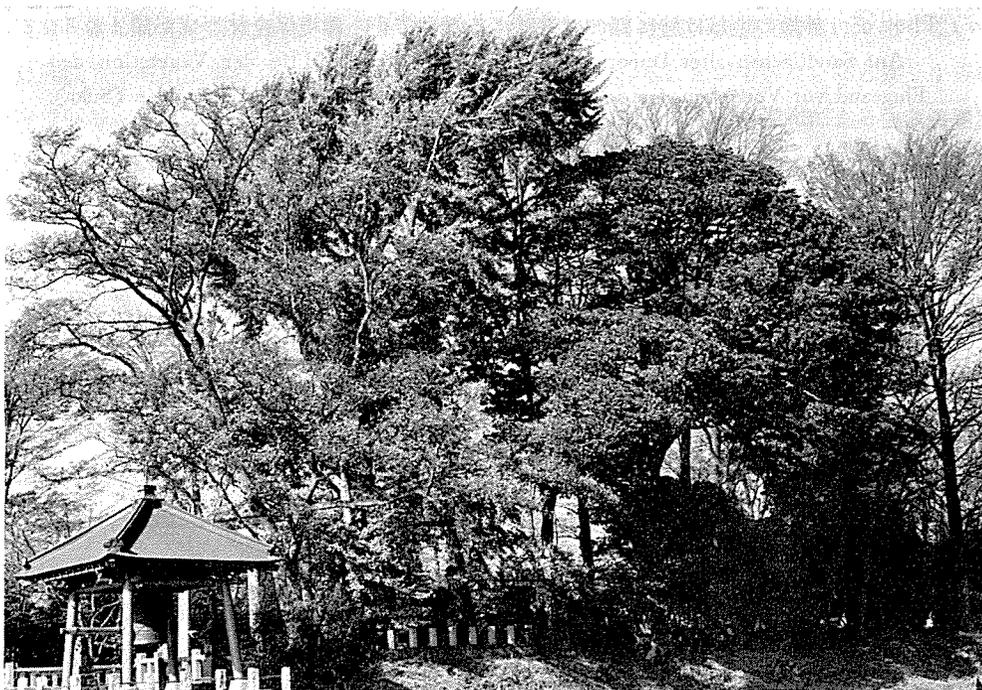
#### 4. 沖積低地

平塚市北部に広がる沖積低地は昔から続けられている稲作と、田園景観の主役を演じてきた水田地帯、さらに増水時には、かつて遊水池として水の逃場であった。現在では埋め立てによる工場・住宅地開発が著しいが、平塚市の行政・商業・工業地の周辺をかこむ水田地帯は平塚市民のふるさとの一環であるだけでなく、これからも発展してゆく潜在エネルギーの蓄積場ともなるはずである。総合的施策の上から最小限度の現地形・水田地域の保存が望まれる。

沖積低地に帯状にまたは放射状にのびる昔からの集落にはケヤキ、タブノキ、シロダモ、ヤブツバキなど丹沢から吹きおろす冬のからっ風に対する防風林の役目もはたす屋敷林が多い。これからの環境保全林形成の見本ともなる。

#### 5. 大磯丘陵・北金目台地

北部の沖積低地とともに平塚市民の郷土の森や田園景観地区として大磯丘陵・北金目台地が残されている。



Phot. 46 単木的に台地上や斜面に残されているタブノキ、エノキ。できるだけ周辺部と共に群落としての保護が必要とされる。

Auf der Hochebene als Tempelwald erhaltener Bestand von *Machilus thunbergii* und *Celtis sinensis* var. *japonica* (Kitakaname).

大磯丘陵からつづく土屋・吉沢は低山と丘陵地が入りくみ、一歩中に入ると道に迷うような谷が多い。人口が集中した市街地のそばにこのような山奥を思わせる自然が残されているところはきわめてまれである。

大磯丘陵では大磯町につづき高麗山、浅間山、湘南平とつづき、かっこうのハイキングコースが設けられている。ここには自然林のヤブコウジースダジイ群集、イノダータブ群集、イロハモミジケヤキ群集など平塚市を代表する本物の郷土林の林分が残されている。また半自然生のクヌギーコナラ群集やイヌシデーコナラ群落は秋季の紅葉で人々を楽しませている。谷部には昼なお暗いスギ植林がみられる。二次林と自然林がとけあった大磯丘陵では現存植生とその景観が全体として厳重に保護されよう望まれる。

土屋、吉沢地域は根坂間より下吉沢にかけヤブコウジースダジイ群集、イノダータブ群集、イロハモミジケヤキ群集が点在して残されており、さらに二次林のコナラ林が広がっている。とくに鷹取山から上吉沢につづく丘陵地は山地、谷部が複雑に入りこみ深い山奥に入りこんだ錯覚におちいるほどである。その大部分はクヌギーコナラ群集で代表される昔から薪炭林として利用されてきた雑木林であるが、全域の景観は、点としての自然林の保護と同時に地域としての保全が望まれる。

土屋では台地上が畑地、斜面に二次林のクヌギーコナラ群集が带状に残されている。斜面の保全が災害対策からも考えられる。

北金目、南金目では屋敷林がきわめてよく残されている。ケヤキが優占した屋敷林は冬季には北金目、南金目を巨大なホウキ状の林でおおっているように見える。平塚市西部に位置する台地・丘陵地の自然は仕事に疲れた人々のやすらぎを与える市民の緑の保養所の場をも提供する。